

保存担当学芸員研修 (⑤必修10-12-2/5)

1. 保存担当学芸員研修

保存担当学芸員研修日程：2012（平成24）年7月9日（月）～20日（金）、参加者数：30名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的変化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984（昭和59）年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は700人を超え、各地で資料保存の重責を担っている。平成24年度は、29回目となる本研修を2週間実施した。

7月9日（月）

岡田健「文化財保存概論」

佐野千絵「保存環境各論 一文化財の材質・構造一」

地主智彦（文化庁）「保存環境各論 一文化財公開施設の設計一」

7月10日（火）

犬塚将英「保存環境各論・実習 一温湿度一」

木川りか「生物被害概論」

小峰幸夫（文化財虫害研究所）・木川りか「生物被害実習 一文化財害虫同定一」

7月11日（水）

佐藤嘉則「生物被害各論 一カビ一」

佐野千絵「保存環境各論 一室内汚染一」

吉田直人「保存環境各論 一光と照明一」

三浦定俊「博物館の設備 一防災・防犯一」

吉田直人「保存環境実習 一室内汚染の測定法一」

7月12日（木）

吉田直人「東文研による環境調査」

朽津信明「保存環境各論 一屋外の文化財一」

吉田直人「保存環境実習 一光と照明一」

早川泰弘「保存環境各論 一大気汚染一」

木川りか「生物被害実習 一トラップデータ解析一」

7月13日（金）

山口孝子（東京都写真美術館）「劣化と保存各論 一写真一」

森井順之「大災害に備えて」

ケーススタディテーマ打合せ

7月17日（火）

北野信彦「劣化と保存各論 一出土遺物一」

坂本雅美（紙本保存修復家）「劣化と保存各論 一紙一」

犬塚将英「温湿度実習解説」

東京国立博物館における講義と見学

7月18日（水）

「環境調査実習 ―ケーススタディー」（国立歴史民俗博物館にて実施）

7月19日（木）

山本記子（保存修復支援技術者 絵画・書跡）「劣化と保存各論 ―日本画―」

早川典子「劣化と保存各論 ―修復材料―」

ケーススタディ発表

7月20日（金）

木島隆康（東京藝術大学）「劣化と保存各論 ―油彩画―」

中山俊介「劣化と保存各論 ―近代文化財―」

研修参加者：渡邊裕美子、湯浅健次郎、山田正樹、三好賢子、富岡優子、土屋慶丞、立和名啓人、竹田梨紗、高橋律子、高田紫帆、清水健、齊藤晴子、小谷竜介、幸喜淳、切原勇人、木山貴満、菅野晶、川又晋、河合志穂、加藤基樹、沖松信隆、江尻英貴、浦木賢治、梅田徹、井本悠紀、今香、石川優生、浅利絵里子、秋山純子、井上大樹

所属：予科練平和記念館、新潟市會津八一記念館、静嘉堂文庫美術館、香川県立ミュージアム、北九州市立自然史・歴史博物館、釧路市立博物館、千葉県立房総のむら、逸翁美術館、金沢21世紀美術館、長野県信濃美術館、奈良国立博物館、町田市立博物館、宮城県教育庁文化財保護課、首里城公園管理センター、鹿児島県歴史資料センター黎明館、熊本市立熊本博物館、青森県立美術館、岩手県立博物館、稲沢市荻須記念美術館、富山県[立山博物館]、国立歴史民俗博物館、いわき市立美術館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、浜松市楽器博物館、日本美術刀剣保存協会、米子市美術館、大分県立歴史博物館、秋田県立博物館、九州国立博物館、文化庁文化財部美術学芸課

2. 博物館・美術館等保存担当学芸員研修フォローアップ研修 ―今後の生物被害対策のあり方―

1981（昭和56）年より毎年、当研究所で開催している博物館・美術館等保存担当学芸員研修の修了者数は700人を超えた。修了生の尽力によって、収蔵・展示環境は大きく改善し、またそのための知識も広く認識されるに至った。しかし、この間にも、科学の進歩とともに、館内環境改善のための技術は発展し続けている。また、地球温暖化、夏季や大震災後の節電対策など、最近の博物館・美術館をとりまく情勢にも、以前には見られなかった変化が生じている。このような状況に伴い、従来とは異なる知識が学芸員に要求されている。本研修では、保存担当学芸員研修修了者を対象に、その職務に必要な最新の知識を常に持つことを目的に、再研修を行おうとするものである。

日程：2012（平成24）年6月25日（月）、会場：東京文化財研究所、参加者：80名

プログラム・講師

岡田健「文化財レスキューのこれまで」

森井順之「大規模災害に強い文化財施設と設備」

佐野千絵「フィルム収蔵庫の保存環境」

吉田直人「東文研が関わる保存環境調査、相談と助言に関して」

3. 資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員のみによってなされるものではない。学芸員以外の館長、事務職や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々が共同で行うものである。本研修は文化財保護に関する知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に理解してもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て開催するものである。

[第17回] 日程：2012（平成24）年10月26日（金）会場：岡山県立美術館

共催：岡山県博物館協議会、参加者：67名

⑤研究指導・研修等 Area22,23

プログラム・講師

- 佐野千絵「保存環境 総論」
- 吉田直人「保存環境各論 温湿度」
- 佐野千絵「保存環境各論 空気環境」
- 吉田直人「保存環境各論 光・照明」
- 佐藤嘉則「生物被害」

連携大学院教育（⑤共）

東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

1995（平成7）年4月より東京藝術大学と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と、保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成り、各講座3名ずつの研究所所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

(1) 開設講座と連携教員

保存環境学講座

- 連携教授 佐野千絵（保存科学研究室長）
- 連携教授 木川りか（生物科学研究室長）
- 連携准教授 朽津信明（修復材料研究室長）

修復材料学講座

- 連携教授 中山俊介（近代文化遺産研究室長）
- 連携教授 北野信彦（伝統技術研究室長）
- 連携准教授 早川典子（主任研究員）
- 助手 古田嶋智子（東京藝術大学大学院教育研究助手）

(2) 授業及び主たる担当教員

- 保存環境計画論（前期） 佐野千絵 連携教授
- 修復計画論（前期） 北野信彦 連携教授
- 修復材料学特論（前期） 中山俊介 連携教授・早川典子 連携准教授
- 保存環境学特論（後期） 木川りか 連携教授・朽津信明 連携准教授

(3) 文化財保存学演習（2012年6月20日）

「伝統的接着剤の基礎知識」

会場：東京文化財研究所

担当：早川典子 連携准教授

(4) 平成25年度修士課程入学試験（2012年9月18、19日）合格者1名